

### 「バイオ実験発表会」報告 ～プレゼンテーション能力向上を目指して～

応用バイオ科学科では、社会人として必要な「プレゼンテーション能力」の習得を目指し、学生実験に対する発表会を各学年で毎学期行っています。ここでは、1年生、2年生、3年生の発表会の様子を紹介いたします。

#### 1年生「バイオ基礎実験」プレゼン “初々しく”開催!

1年前期の「バイオ基礎実験」では、7月15日に発表会を行いました。学生は、これまで実験してきた4つのテーマから発表する内容を1つ選び、事前にA4判縦1頁の要旨をワードで作成し、発表当日は、パワーポイントで5分間の口頭発表と質疑応答を行います。

初めての発表、それも座長とタイムキーパーが付き質疑応答もあるという卒業論文発表会と同様の発表形式のため、皆、緊張した面持ちでした。それでも、連携授業である「コンピュータプログラミング」において十分な発表準備をしていたこともあり、よくまとめられた発表資料や堂々とした発表態度が、先生方から高く評価されていました。また翌日には、3年生の自主テーマ実験Ⅱのポスター発表会にも参加して、先輩の発表を聞き、熱心に質問をしていました。発表者と聴講者、質問者の全ての立場を1年生のうちに経験できたことは、貴重な財産になったと思います。



緊張しながらも懸命に発表しています

#### 2年生「バイオ実験Ⅱ」プレゼン “堂々と”開催!

2年前期の「バイオ実験Ⅱ」では、7月13日と20日の2日間にわけて発表会を行いました。発表形式は1年生と同じです。食品に関する実験テーマ(食品中の塩分濃度や糖の定量、食品中の微生物やSalmonellaの検出)の中から発表テーマを1つ選び、5分間の口頭発表と質疑応答を行います。発表資料の出来映えや発表の仕方は、1年生に比べて格段に向上している様子が認められました。一方質疑応答に関しては、積極的に発言する学生がまだまだ少なかったという印象でした。今後の学生生活において、「コミュニケーション能力」も大いに磨いてくれることを期待しています。



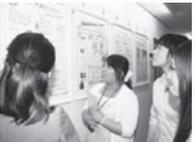
質問に懸命に答えています

#### 3年生「自主テーマ実験Ⅱ」プレゼン“盛大に”開催!

7月16日に、3年生の自主テーマ実験Ⅱの発表会が開かれ、全員がポスター発表を行いました。これは、「バイオ実験Ⅳ」及び「機器分析実験Ⅱ」で磨いた実験手法をさらに発展させ、4人1組のグループで「自主的に」テーマを決め、1ヶ月間にわたって実験し、その結果を各人がポスターにまとめ発表するものです。ここで培われた実験態度や心構えは、4年生の卒業研究へつながっていきます。企業からは4社の参加があり、また学内からは小宮学長、高橋筆頭理事を始め、多くの方々参加があり、活発な議論が行われました。最優秀ポスター賞を参加者の投票により選んだところ、個人の部では「Let's change エルゴステロール～日光からビタミンDを得よう～」という題目で大島祐貴さんが、グループの部では「G2 加齢臭(ノネナール)の測定」という題目で、青木賢一さん、鷹巣 博さん、河合 祥さん、別府貴晃さん、江澤秀和さんが選ばれました。



実験風景。得られたデータについて議論しています



ポスター発表風景。活発に討論しています



最優秀ポスター賞を受賞した大島祐貴さん(右)と学科長岡部教授



表彰式を終えて全体で記念撮影

#### <手記>3年間のバイオ実験を終えて 3年 成岡美智

私がバイオ実験を3年間やってきて感じたことは、実験の意義を理解することの重要性や時間をかけて考えたり調べたりしたほんの一部だけが結果として現れてくるということです。実験目的にしても方法にしても、自分が必要とする結果と本当に合致しているかどうか、結果から何が言えるのか、またなぜ失敗したのかなどについて考えることを学びました。また観察の重要さも感じました。ちょっとした変化に気づき、その原因を考えることができたなら、もっと実験が有意義になっていたのではないかと悔やむ点もありました。実験をするまでの準備の大切さや考察の難しさなども体得でき、実験に取り組む姿勢も変わりました。



ポスター発表をしている成岡さん

### マーク先生 “夏のワークショップ2010”

今年もサウスシアトルコミュニティカレッジからマーク先生を招いて英語でバイオ実験を行いました。土日も実験を行う日程であったにもかかわらず、1年生から4年生まで20名以上の学生が参加して、3日間で4種類の実験を行いました。日本語が使えないため、いつも以上の緊張感を持って必死にノートをとったり、予習で黒くなったテキストに書き込んだり、熱心に受講していました。アンケートでは、「満足」と「だいたい満足」の回答数を合わせると100%という驚異的な結果からもわかるように、マーク先生の分かりやすい発音と板書を多用した丁寧な説明に、皆充実した時間を過ごしていました。



マーク先生の個別指導による実験



実験を終えて全体で記念撮影

#### 理数科の高校生への特別授業

7月1日、秋田県立由利高校において、理数科の1年生と2年生に小池あゆみ准教授が特別授業を行いました。生命科学分野の最先端の話題を織り交ぜながらの100分間の講義を通して、高校で習っている「化学」「生物」「物理」というそれぞれの分野は決して別々のものではなく、やがて融合していくのだということを伝えました。科学技術が人類にもたらした功績と未来予想の話題では、「すごーい」と高校生の皆さんからも思わず感嘆の声が。21世紀はバイオテクノロジーの時代。講義をきっかけに科学技術者の卵たちが秋田の地でたくさんかえってくるとうれいでした。



秋田県立由利高校で小池准教授が出前授業

### バイオフィアミリーの懇談会

応用バイオ科学科では、教員・学生同士の交流を深めるための懇談会を、クラス単位ではなく、学年単位で開催しています。1年生は6月11日に第4食堂で、3年生は自主テーマ実験発表会終了後に第2食堂で、それぞれ行いました。3年生は実験・発表会を無事にやり遂げた達成感のため、これまでの懇談会で最高の盛り上がりとなりました。一方1年生の懇談会は、これまでにほとんど話したことがない教員や学生との交流が活発に行われ、和気あいあいとした雰囲気でした。バイオフィアミリーの絆は、懇談会を通してより深まったように感じました。



1年生の懇談会の一コマ



3年生の懇談会の一コマ